



岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは「都市住民の力で棚田を守る」

千葉県鴨川市の大山千枚田「オーナー制度」
募集枠の3倍超え応募/ホタル観察会も/活動通じ数十人移住

新型コロナウイルス下で光を避け、自然と触れあう人が増える中、棚田の景観や生き物に関心が集まる。千葉県鴨川市のある大山千枚田では、本年度の棚田オーナー制度の参加希望は、募集枠を3倍上回った。

地元農家は「都市にない豊かさを求めて来る人のためにも地域を維持しなければならない」と強調する。

「皆さんが来るから棚田周辺の環境や景色、文化が守れることを知って欲しい」。

6月中旬、大山千枚田に集まった約50人の棚田オーナーに、大山千枚田保存会の浅田大輔事務局長が呼びかけた。棚田周辺には、約4000種の昆虫や両生類などが生息する。絶滅危惧種の二ホンアカガエルもいる。

この日は保存会が、オーナー限定でヘイケボタルの観察会を開いた。乱獲防止のため、一般公開はしていない。船橋市から初めて参加した熊谷さん(52)は「珍しい棚田とホタルを子どもに見せたかった。今後も通いたい」と話す。

保存会がオーナー制度を始めたのは2000年。3.2ヘクタールある棚田の面積で、畦畔は4割を占める。地域で高齢化が進む中、平地より草刈りや収穫に時間のかかる棚田を守るため、都市住民の力を借りることにした。本年度、30組の新規募集枠に対して100組超の申込があった。当初、39組だったオーナーは161組に増えた。

農家で保存会理事長の石田三示さん(70)は「コロナ禍を経て、都市部にはない自然の癒しを求めて来る」とみる。活動を通じて大山地区に移り住んだ人は30、40人に上る。

1999年、同地区に移住して保存会の理事を務める長村順子さん(63)は、農ある暮らしをしようと移住先を探していたときに、大山千枚田の棚田オーナー制度を知った。

長村さんは「棚田の風景に一目ぼれした」と決め手を話す。

保存会が運営する古民家レストラン「ごんべい」のメニュー考案や、生き物観察会などの企画立案に携わる。

ただ、都市住民を魅了する同地区にも高齢化の波が押し寄せる。21年の人口は1124人で、10年間で20%減った。市全体の減少率を8ポイント上回る。

山あいの集落特有の課題もある。足腰に不安を抱えるようになった人は、通院や買い物の利便性が高い市街地に向かうという。

石田さんは、送迎サービスなど車がなくても生活に困らない仕組みが必要になると見通す。

石田さんは「住む人と訪れる人の両方がいて豊かな自然と地域は守られる」と話す。

～～～展示会出展のご提案～～～

FABEX関西 2023

日時：2023年10月11日（水）～13日（金）まで

会場：インデックス大阪 1・2号館

ブースナンバー：1N-11

テーマは「お肉が変わる!エンドウミート、プロテインが変わる!エンドウパウダー」

次世代のベジミート3種類

エンドウミート、大豆ミート、オートミールを提案しています

エンドウミート（ミンチミート・スライスミート）

エンドウ豆のパウダーも加わりました！